

第 30 回日本植物形態学会評議員会議事録

平成 30 年 9 月 13 日 12:30~13:15、広島県情報プラザ第三研修室

出席：会長（峰雪）、庶務幹事（永田）、会計幹事（林）、編集委員長（堀口）、編集委員（榊原、宮沢）、
広報委員長（佐々木）、広報委員（宮沢）、評議員（今市、唐原、河野、嶋村、塚谷、林、東山、松永、
宮城島、宮沢）、第 30 回大会準備委員長（酒井）

※下線は複数の役職を兼ねている先生

議題：

1. 報告事項

(1) 会長報告(峰雪)

平成 30 年 1 月に学会役員及び評議員の交替があり、新体制での学会運営を開始したことの報告があった。

(2) 庶務報告(平成 29 年度大会(野田)報告を含む)(峰雪)

平成 29 年度の活動報告(第 29 回大会の報告を含む)がなされた。

特記事項として、(i) 会長・評議員選挙のために名簿改訂を行ったことにより、幽霊会員の整理がなされ、見かけの会員数が減少したこと、(ii) 2 月に、今後の大会運営方法についての議論するワーキンググループを立ち上げたこと、(iii) 12 月に平成 30 年からの次期会長・評議員選挙を行ったことが報告された。

(3) 編集委員会報告(唐原)

Plant Morphology 29 巻を平成 29 年 4 月に刊行したことが報告された。

他の和文雑誌の多くが廃刊となっていること、Plant Morphology の和文雑誌としての重要性が今後増加するであろうとの認識が報告された。Plant Morphology 印刷費の抑制についての検討状況が報告された。その検討結果に基づき、30 巻より印刷は基本モノクロとし、カラーチャージ(1 ページ 1 万円)を新たに導入することが報告された。

(4) 広報委員会報告(佐々木)

前広報委員会から学会ホームページの管理を引き継いだこと、ホームページの部分的な故障の修理を外部業者への委託により行ったこと、現在改訂中の項目についての報告があった。

(5) 会計報告(平成 29 年度決算)／会計監査報告(林／松永)

平成 29 年度決算が報告された。例年と大きく異なる点として、Plant Morphology 29 巻のページ数が以前に比べて増加したため支出が増えたが、別刷り収入も例年に比べて増えたこと、次年度への繰越金が約 40 万円減少したが、これは学会ホームページのリニューアルにかかった費用とほぼ同額であり、予定通りであったことが報告された。平成 29 年度決算について会計監査実施報告があり、適正であった旨の報告があった。

(6) 3 賞選考結果について(塚谷)

今年度植物形態学会 3 賞について、選考の過程が報告され、学会賞は野崎久義会員が、平瀬賞は藤浪理恵子会員を代表とする論文 1 編が、奨励賞は坂本卓也会員が授賞することになったとの報告がなされた。選考委員会は、選考委員長(塚谷評議員)、委員(唐原評議員、林評議員、嶋村評議員)、堀口編集委員長、オブザーバー(峰雪会長)から構成され、応募数はそれぞれ学会賞 1 件、平瀬賞 4 件、奨励賞 2 件であったこと、選考は委員による 3 回のメール審議で行われたことも報告された。

(7) 平成 30 年度大会(広島)について(酒井)

平成 30 年度大会について、9 月 13 日、広島県情報プラザにて、大会長を藤江誠会員として開催中である旨が報告された。ポスター発表は 50 題、事前参加申込者数は 74 名でありほぼ例年通りであることも報告された。

(8) 平成 31 年度大会(東北)について(宮沢)

平成 31 年度大会を、日本植物学会の前日に、植物学会会場と同じ東北大にて、宮沢豊会員を大会長として行う予定であることが報告された。

(9) 役員(会計幹事)の交代(永田)

会長の指名により、会計幹事を林八寿子会員から交替で三角修己会員に委嘱することが報告された。

(10) その他

なし

2. 審議事項

(1) 平成 30 年度事業計画案について(永田)

平成 30 年度事業計画案(ただし、評議員会当日までは実績)について計画が示され、審議の結果承認された。例年と異なる点として、日本学術振興会「育志賞」候補者として一名を推薦した旨、生物科学学会連合第 18 回定期会議および公開シンポジウムに、永田庶務幹事及び堀口編集委員長が参加することも承認された。

(2) 平成 30 年度予算案について(林)

平成 30 年度予算案(ただし、評議員会当日までは実績)について案が示され、承認された。

(3) Plant Morphology 誌(堀口)

Plant Morphology 29 巻のページ数が以前に比べて増えたため、出版費用が増加したことを受け、以下の対応策が審議され承認された。著者に別刷りの購入をできるだけ依頼する。本件を著者に執筆前に理解してもらうため、原稿依頼時に呼びかけるが、同時に外部からの投稿者にも投稿前に認識してもらうため、別刷り購入のお願いを投稿規定に盛り込む。

Plant Morphology 誌の転売禁止の旨を明記した方が良いとの提案があり承認された。

また、別刷りについて PDF ファイルの販売等の提案もあったが、雑誌の内容が無料で公開されるため PDF ファイルへの課金は難しいとの結論に至った。別刷り販売を止めた場合に予想される会計状況についての議論、特集をまとめた別冊の販売促進などについても議論があった。またバックナンバー等の在庫は編集長が保管しており、1 冊 2000 円で販売可能であることが報告された。特集をまとめた別冊の購入について、その価格は著者には知らされているが、会員には知らされていないことが確認された。しかしながら、会員に知らせるタイミングの設定が難しいため、本件については引き続き検討を進めることとなった。

(4) 30 周年記念企画(永田)

本学会は本年度 30 周年となる。25 周年時には出版事業を行った。30 周年記念企画として、昨年学会ホームページを刷新したことを生かし、ホームページ上に 30 周年記念用のページを用意し、初期の学会長等に、本学会の沿革・思い出についての文章の寄稿をお願いすることが提案された。本案は審議の結果承認された。

(5) 役員(広報/編集委員)の交代(永田)

広報/編集委員を宮沢豊会員から吉田大和会員に交替する旨が提案され、承認された。

(6) 今後の大会運営についてのワーキング活動(宮沢)

大会運営についてのワーキンググループから現在までの検討状況が報告された。ポスター発表の時間として、2 分×ポスター数を確保することが望まれるとの報告があった。今後も意見収集を進め、今年度末までに最終報告を行うという計画が提案され、承認された。

(7) その他

7-1. 大会におけるポスター発表について

現状の制度では、非会員も大会において研究(ポスター)発表を行うことが可能であるため、ポスター発表を会員に限定する必要があるとの指摘があった。大会当日に入会し発表を行うことも可能とするなどの配慮も取り入れた入会と会員に関わる会則の制定を今後進めるということが承認された。

これまでの大会案内においては、大会当日のポスター発表申し込みも可としていたが、ポスターボードの準備等に支障が出るため、今後の大会においてはポスター発表を事前申し込みに限定することが提案され承認された。

7-2. ポスター賞の対象について

ポスター賞の選考において、投票権を有する者(大会に参加する正会員全員)がすべてのポスターの内容を把握する時間が取れないこと、投票率低いことなどが問題となっており、来年度大会からポスター賞の対象を学生会員が発表者として申し込みを行ったポスターに限定するという提案がなされ、承認された。

7-3. 大会中の託児について

これまで、本学会大会が植物学会大会と同一会場の場合は、植物学会に相談の上、託児室を借りることが出来ているが、今回のように会場が異なる場合の対応を検討する必要があるとの指摘があった。この場合、大会会場とは異なる外部の託児施設の利用が必要となるため、学会より該当する会員に補助を出す(1時間当たり300-400円)ことが提案され承認された。

費用よりも、現地における託児サービスの情報の方が重要という意見があり、今後の大会においては、大会会長が中心なり、男女共同参画室等からの情報収集を行い、会員に情報を提供することが提案され承認された。また将来の大会のために、その情報を総会の議事録とともに保管することが提案され承認された。

(8) 総会議長候補の選出について(永田)

総会の議長として、今市涼子会員を推薦することが提案され承認された。

以上。

1. 会長挨拶（峰雪）

峰雪学会長より挨拶があった。

2. 大会長挨拶（藤江）

藤江大会長より今大会の準備及び広島の紹介などを含めた挨拶があった。

3. 総会議長選出（永田）

総会議長として、評議員会推薦の今市涼子会員が選出された。

4. 報告事項

(1) 会長報告（峰雪）

植物形態学の現状について峰雪会長より報告があった。

(2) 庶務報告（平成 29 年度大会（野田）報告を含む）（峰雪）

峰雪会長より第 29 回大会（野田）、会長・評議員選挙のための会員名簿更新、選挙の実施、今後の大会運営方法について議論するワーキンググループの立ち上げなどを含めた 29 年度の活動報告があった。

(3) 編集委員会報告（唐原）

唐原前委員長より *Plant Morphology* 29 巻の発刊とそれに関わる会計状況の報告があった。

また、印刷費抑制のため、30 巻より印刷は基本モノクロとし、カラーチャージ(1 ページ 1 万円)を新たに導入することが報告された。

(4) 広報委員会報告（佐々木）

前広報委員会から学会ホームページの管理を引き継いだこと、ホームページの部分的な故障の修理を外部業者への委託により行ったことが報告された。

(5) 会計報告（平成 29 年度決算）／会計監査報告（林／松永）

平成 29 年度の決算が報告された。例年と大きく異なる点として、*Plant Morphology* 29 巻のページ数が以前に比べて増加したため支出が増えたが、別刷り収入も例年に比べて増えたこと、次年度への繰越金が約 40 万円減少したが、これは学会ホームページのリニューアルにかかった費用とほぼ同額であり、予定通りであったことが報告された。

松永会計監査より、平成 29 年度決算について会計監査実施報告があり、適正であった旨の報告があった。

(6) 3 賞選考結果について（塚谷）

塚谷選考委員会委員長より、慎重かつ厳正な選考の結果、学会賞を野崎久義会員、平瀬賞を藤原理恵子氏を代表とする論文 1 編、奨励賞を坂本卓也会員が授賞することが報告された。

(7) 平成 30 年度大会（広島）について（酒井）

平成 30 年度大会について、9 月 13 日、広島県情報プラザにて、大会長を藤江誠会員として開催中であり、ポスター発表は 50 題、事前参加申込者数は 74 名でありほぼ例年通りであることも報告された。

(8) 平成 31 年度大会（東北）について（宮沢）

平成 31 年度大会を、日本植物学会の前日に、植物学会会場と同じ東北大にて、宮沢豊会員を大会長として行う予定であることが報告された。

(9) 役員交代 (永田)

来年度より、会計幹事を三角修己会員に、広報/編集委員を吉田大和会員に委嘱することが報告された。

(10) その他

本学会は本年度 30 周年となる。25 周年時には出版事業を行った。30 周年記念企画として、昨年学会ホームページを刷新したことを生かし、ホームページ上に 30 周年記念用のページを用意し、初期の学会長等に、本学会の沿革・思い出についての文章の寄稿をお願いする予定であることが報告された。

5. 審議事項

(1) 平成 30 年度事業計画案について (永田)

庶務幹事より、今年度事業計画案 (学会当日までの分は実績) について説明があり、審議の結果承認された。例年と異なる点として、日本学術振興会「育志賞」候補者として 1 名を推薦した旨、生物科学学会連合第 18 回定期会議および公開シンポジウムに、永田庶務幹事及び堀口編集委員長が参加することも承認された。

(2) 平成 30 年度予算案について (林)

会計幹事より、今年度予算案 (学会当日までの分は実績) について説明があり、審議の結果承認された。なお、今年度は会長・評議員選挙のための名簿発送経費、生物科学学会連合第 18 回定期会議および公開シンポジウムに関する経費 (年会費及び会議経費のみ、旅費は除く) の支出があることも承認された。

(3) その他

3-1. 大会におけるポスター発表について

現状の制度では、非会員も大会において研究 (ポスター) 発表を行うことが可能であるため、ポスター発表を会員に限定する必要があるとの指摘があった。大会当日に入会し発表を行うことも可能とするなどの配慮も取り入れた入会と会員に関わる会則の制定を今後進めるということが承認された。

3-2. ポスター賞の対象について

ポスター賞の選考において、投票権を有する者 (大会に参加する正会員全員) がすべてのポスターの内容を把握する時間が取れないこと、投票率低いことなどが問題となっており、来年度大会からポスター賞の対象を学生会員が発表者として申し込みを行ったポスターに限定するという提案がなされた。また、ポスター賞はポスター自体では無く発表を対象とするので、賞の対象をポスター (全著者) ではなく、ポスター発表を行う学生に限定した方がよいとの提案があった。議論の結果、会員からの意見をさらに収集し審議を継続し、最終決定を評議員会に委ね、変更の場合は来年度大会から新制度を適用することが承認された。

3-3. 大会中の託児について

これまで、本学会大会が植物学会大会と同一会場の場合は、植物学会に相談の上、託児室を借りることが出来ているが、今回のように会場が異なる場合の対応を検討する必要があるとの指摘があった。この場合、大会会場とは異なる外部の託児施設の利用が必要となるため、学会より該当する会員に補助を出す (1 時間当たり 300-400 円) ことが提案され承認された。

費用よりも、現地における託児サービスの情報の方が重要という意見があり、今後の大会においては、大会会長が中心なり、男女共同参画室等からの情報収集を行い、会員に情報を提供することが提案され承認された。また将来の大会のために、その情報を総会の議事録とともに保管することが提案され承認された。

6. 授賞式

「学会賞」: 野崎 久義 氏 (東京大・院・理)

「平瀬賞」: *New Phytologist* (2017) 215: 1210-1220.

代表受賞者 藤浪 理恵子 氏 (京都教育大・教育)

「奨励賞」: 坂本 卓也 氏 (東京理科大・理工)

・受賞記念講演会 (13:30~15:00)

奨励賞 (13:30-13:50): 栄養ストレスがもたらす DNA 損傷の発生と緩和メカニズム
坂本 卓也 氏 (東京理科大・理工)

平瀬賞 (13:55-14:15) : Root apical meristem diversity in extant lycophytes and implications for root origins.

藤浪 理恵子 氏 (京都教育大・教育)

学会賞 (14:20-15:00) : ライフサイクルと微細なかたちに魅せられて

野崎 久義 氏 (東京大・院・理)

講演会終了後は、ポスター会場に移動しポスター発表を行った。

ポスター会場では一般会員の投票により、ポスター賞1件

「平面状群体の胚発生解析から探るボルボックス系列緑藻における球状群体への進化」山下 翔大, 野崎 久義 (東京大・院・理・生物科学)

を選び表彰を行った。

以上